

大項目	言葉の基礎
小項目	音韻認識
タイトル (教材名)	しりとり、グリコ
目的 身につけてほしい力	遊びの中で、言葉がどんな音の塊でできているのか認識する力(=音韻認識)を育てる。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり 相手の言った最後の文字を取り出して、その文字が先頭につく言葉を言う。音を意識することで音韻認識を育てる。子どもの実態に合わせて「最後から二文字目を取る」「終わりの二文字を取って、その二文字が最初につく言葉を言う」などと発展させるとよい。 ・グリコ じゃんけんをして勝った方が、出した手に応じた言葉を言いながら階段を進む。通常は、 <ul style="list-style-type: none"> ゲー → グリコ：3段 チョコキ → チョコレイト：6段 パー → パイナップル：6段 だが、特殊音節の拍数に従って「<u>チ</u>ョコレイト」は下線部を一拍として数える。言葉を別の物に変えてもいいし、その場で考えた言葉を使うのも面白い。
教材の使用方法	教師が参加する場合には、子どもの苦手な特殊音節が混じるように配慮するとなお良い。
その他	